

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立野田小学校
校長 本田 稔

中学校区におけるめざす子ども像
自ら学びあきらめずに問題解決する子

令和7年度 重点目標

○「学びを進められる子ども」の育成 ○ICT を活用した個別最適な学びと協働的な学びの実現

「確かな学び」の現状

- ・落ち着いた態度できちんと話を聞くことはできるが、発表する児童には偏りがある。安心して発言できる学級づくりを継続しながら、児童が主体的に学習に参加したくなる授業づくりや仕掛けを工夫していく。
- ・令和6年度の全国学力・学習状況調査や大阪府学力調査の結果から、条件を満たして書く問題は、全国平均を大きく上回る。国語の漢字では全国を、算数の知識・技能では府を下回る。無答率は全国・府より良好な結果である。
- ・学習の土台となる読書活動については、ここ数年の取り組みで成果が上がっている。家庭学習の習慣も定着している児童が多い。ともに今後も継続して取り組む。

「豊かな心・健やかな体」の現状

- ・素直で明るく優しい子供が多く、規範意識は育っている。
- ・真面目で何事にも一生懸命取り組むが、新たなことへ挑戦する意欲や勇気を育む必要がある。学級づくりなど学校生活全体を通して自尊感情を高めていく。
- ・体育的な活動や行事には積極的に取り組むことができるが、体力は、コロナ禍以前よりもかなり低下している。体育の時間における運動量の確保、昼休みの外遊び奨励など継続して取り組む。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	学力向上	教育課程の円滑な実施	適切な教育課程(1075時間以下)のもと、「学びのコンパス」に基づく授業づくりを実践する。	適切な授業時数で、「個別最適な学び・協働的な学び」を推進し、80%以上の子どもが「授業がわかる」「学び方を自分なりに工夫している」と回答する。	授業等時数管理様式 学校教育アンケート 実施状況	2.3学期末	○ 教務主任が中心となり。適切な授業時数を管理できている。学年ごとに指導主事、指導教諭等を招聘し、「学びのコンパス」の授業実践を積み重ねている。	◎ 児童回答は、「学校が楽しい」88%、「学び方を工夫してる」89%。	◎ ・学び方を児童が選択できる取り組みはよい。
		ICTを活用した「学びを進められる子ども」の育成	★全教育活動を通して、カリキュラム・マネジメントを活用した「思考力・判断力・表現力」の育成や教職員の取り組みを共有する。	全教員が研究授業を行い、85%の教員が『『思考力・判断力・表現力』を向上させる取組や、教科横断的な学習活動を実施し、成果を感じ取ることができる』と回答する。	学校教育アンケート 実施状況	年度末	○ 校内研修だけでなく、若手教師の自主研修(たけのこ研修)も活発で、授業公開を積極的にを行い、授業力向上に努めている。	○ ・85%以上の教員が『思考力・判断力・表現力』を向上させる取組や、教科横断的な学習活動を実施し、成果を感じる』と回答。	○ ・参観時に、授業で工夫されているところが伝わってきた。
			●ICTの効果的な活用法について情報共有し、日常的にICTを有効活用した授業を行い、学習が苦手な児童の支援につなげる。	ほぼ全ての教員が「ICTを授業において活用した」と回答する。	学校教育アンケート 実施状況	年度末	○ 学年の発達段階に応じたICTの効果的な活用を工夫し、実践している。研究授業でもより有効な活用法を提案している	◎ ・すべての教職員が「ICTを授業で活用した」と回答。有効活用できている。 ・91%の教職員が「ユニバーサルデザインや	◎ ・ICTの活用については、まだまだ向上していくと思われる。生成AIの活用等も含めて研究を進めていただきたい。
			★授業のUD化(視覚化・焦点化・共有化)や特性理解(アセスメント含)の視点を取り入れ、安心できる学習環境、わかる・できる授業づくりに取り組む。	ほぼ全ての教員が、「ユニバーサルデザインや特性について理解し、意識して指導に取り組んでいる」と回答する。	学校教育アンケート 実施状況	年度末	○ 4月にUDの研修を実施し、教室設営や言語環境、授業づくり等について共通理解を図った。それに基づいた実践ができている。	○ 特性理解を意識した指導)に取り組んでいると回答。今後は、「自己肯定感の向上・人間関係づくりへの取組報告」、丁寧な情報共有等に一層力を入れる。	○ ・ソーシャルトレーニングの成果と一層の必要性を感じる。 ・話を聞き、発表する内容の肯定的な回答率の高さは、普段の授業での取り組みの成果であろう。
		●主体的に考えを伝え合うことで、各教科でつきたい資質・能力の育成を図る。	80%以上の子どもが、「授業では、自分の考えを伝えている」と回答する。	学校教育アンケート 実施状況	年度末	○ 堺市学調(4～6年)の「話を聞き発表をする」内容の質問で肯定的に回答した児童は、R6の74.6%からR7は85.6%増加。	○ ・「自分の考えを伝えている」80%、「自分の考えを書いている」88%と児童が回答。		
豊かな心・健やかな体	豊かな心	「自らを律し、自分も人も大切にできる子ども」の育成	●自尊感情を高め、多様性を認め合える集団を育成しながら子どもの変容を記録・共有し、多角的な理解につなげる。	80%の職員が「指導計画に基づくピア・サポートを実践し、効果があった」と回答する。	学校教育アンケート 実施状況	年度末	○ グループワークや教育相談で、友達や担任に話を聞いてもらう機会をつくり、安心して生活できる環境づくりに努めている。	◎ ・97%の教員が、実践して効果があったと回答。情報提供も活発。	◎ ・話し合いの機会を大切にすることで、主体性も育ってきている。
		学校生活のきまりについての意義を理解し、守る態度の向上を図る。	85%の教員が「各月の目標によりきまりを守る態度の向上が見られた」と回答する。	学校教育アンケート 実施状況	年度末	○ 中・高学年は、靴箱やトイレの履物がほぼ毎日きれいにそろっており、学年が上がるにつれルールやマナーを守る意識が身に付いている。	◎ ・90%の教員が、きまりを守る態度の向上を実感している。廊下歩行など徐々に向上。	○ ・進んで発表しない子どもたちへの対応を更に工夫してほしい。	
	健康・安全に対する意識と体力の向上	学校生活全体での活動量確保や、自ら運動することの良さを知り進んで体を動かそうとする態度を育成する。	85%の教員が「活動量を保障した体育科学習や運動することの楽しさ大切さを子どもたちが理解できるように指導している」と回答する。	学校教育アンケート 実施状況	年度末	○ 活動量が豊富な体育の授業を実践している。運動の前は、毎朝練習する姿も見られた。「新体力テスト」の結果は、堺市平均を若干上回っている。	◎ 100%の教員が、肯定的な回答だった。時々だけがをする児童がいるが、よく活動している。	◎ ・取組の成果を感じる。今後も苦手な種目を意識して授業で取り組んでほしい。	
		食育や学校検診の実施などを通して自らの健康・安全に関心を持ち、免疫力を高めようとする意識をはぐくむ。	85%の教員が、「病気・けがの予防や免疫力の向上について指導している」と回答する。	学校教育アンケート 実施状況	年度末	○ 栄養教諭、養護教諭が積極的に情報提供を行い、担任と連携して食育や健康教育を進めている。	◎ 97.5%の教員が肯定的な回答だった。栄養教諭が、希望者へ個別の栄養指導を実施。	◎ ・食育に関する栄養教諭の取り組みが素晴らしい。	
連携	発信	教育活動の発信	HP・各種通信や学級懇談会などを通して、学習活動の様子や学校の現状を発信する。	ほぼ全ての教員が、「何らかの手段で、教育活動の様子を発信した」と回答する。	学校教育アンケート 実施状況	年度末	△ 個人情報の取扱いに注意を払いながら、定期的な情報発信を行っている。連絡を取りづらい家庭への対応を工夫している。	○ 88%の教員が実施したと回答。家庭状況を考慮した対応を工夫し、連絡を取り合う努力を重ねた。	○ ・働き方という観点からは難しい面もあると思うが、家庭訪問などのきめ細かな対応も継続してほしい。

校長より(年度末) 「確かな学び」に関しては、「学びのコンパス」を意識した授業実践が増え、児童の主体的な学びが向上してきた。一方、自分の思いを積極的に伝えている」と回答する児童が、学年が上がるにつれ徐々に減少する傾向にあるので、今後の課題としたい。ICTに関しても、予想される近未来の社会に対応できる能力を計画的に育んでいきたい。「豊かな心・健やかな体」については、児童の落ち着いた生活態度を今後も継続しつつ、自分も人も大切にしている感性、体力の向上、食育の充実に取り組む。家庭状況に配慮した取組等、丁寧な連携のあり方も大切にしていこう。

学校関係者評価者から(年度末) 子どもたちに学びをゆだねる動きの中、先生たちがすべきことをしっかりと意識しておくことが大切になってくるのではないのでしょうか。良い意味で「ケンカ」をして解決まで粘れる子どもを中学校とともに育てていきたいと思います。